



インタビュー 麻布 旬の人

インタビュー 麻布旬の人
 わが麻布学園の卒業生となると多士済々。その中で特に若々しく特異な活躍をしているのが旬の人。第二回はCGアートデザイナー、阿波徹さんにご登場願いました。きき手斎藤(久) 十廿利

あわとおるさん 一九九〇年(平成二年)麻布高校卒。グラフィックデザイナーを経て、現在は(株)ポリゴンビクチュアズでCGアートデザイナー。アメリカで最高に権威あるCG(コンピュータ・グラフィック)の祭典「SIGGRAPH」に「CROCOTIRES:tractionAAA」が入選。ブラジルで一等賞、カナ

でも二等賞を得る。ドイツ、オーストリアでも作品が紹介される。アメリカ、日本でのフルCG映画作りにアートデザイナーとして参加。

作品は「CROCOTIRES」、「Sky Monkey's」、「theFLYBand」、「資生堂HGスーパーハードムースノクラフド」など。

CG作品
 で活躍の
 阿波パトリック徹さん
 (平成二年卒)

阿波さんの作品に、ペンギンを使ったヘアムースのCMがありましたね。

・あれは中学生、高校生が興味を持つようにといわれて、DJを入れたりペンギンにサングラスをかけたりました。わたしのデビュー作です。このCMで売り上げが四倍伸びたそうです。

アメリカのSIGGRAPHで高い評価を受けられましたが、どんな作品ですか。

・「CROCOTIRES」(クロコトイア)と言います。多くの山積みになった古タイヤがあって、夜になると、その中の二つが二匹のクロコイル(ワニ)に変身してボクシングをするんです。小さい方が大きい方に勝って新品のホイールをもらいます。チャンスのために頑張る二人がいてもいいかな、みたいなストーリーです。

タイヤの模様からクロコイルという着想は面白いですね。

・私の場合は、まずイメージが浮かんでそれからストーリー作りとなります。

麻布時代はどんな生徒でしたか。

・高校で吉本先生の芸術を選択しましたが、美術部に属していたわけではありません。絵を描くことは好きで、これが仕事になるのならいいな、ぐらいに考えていました。千葉大の工業意匠学科に進んだのですが、プロダクトデザイナーとしての就職は思うようにいきませんでした。

ということば、思っても見なかったCGに横から入ったようなものですね。

・そうですね。わたしは工業デザインをやったよかつた思っています。初めからCGソフトを使えるに越したことはないですが。伝統的なアニメをやったからCGに入る人もいますし、私の場合は、プロダクトデザインのバックグラウンドを、発想に生かしたりしている訳です。どこへ行ってどう勉強するかではなく、どういうことをやりたいかがだいじだと思えます。

なるほどそうですね。阿波さんはアメリカの市民権をお持ちですが今後どのようなお仕事を?

・再びアメリカに行き、世界中から集まったアーティスト達と一緒に、でかいCG映画をどんどん作りたいです。「スターウォーズ」などにデザイナーとして加わることでできれば最高ですね。ご活躍を期待します。

国際交流



各国から5名の留学生
 本校では国際交流事業の一環として、留学生の受け入れを行ってきたが、今年はいままで最高の5名の留学生を受け入れた。交換留学生の提携校である英国ウィンチー・スター校からはトム・カイリー君。一昨年から本校との交流が始まった中国寧波中等専門学校からは戴靈暁君と呉挺君の二名。そして今年、国際交流団体であるYFUからスタン・トーマス君(スウェーデン)とキム・ダニエル君(韓国)が来校した。

五名は高校二年に在籍し、日本語の授業と、希望した授業を本校生徒と共に受講。個別のベ・スにあわせた時間割だが、キム君はYFUのスピーチコンテストで優勝するほど、日本語が上達した。

生徒との友好も、冗談を言い合うほど良好。交流の輪を今後も広げていけることを願っている。

(松田)